

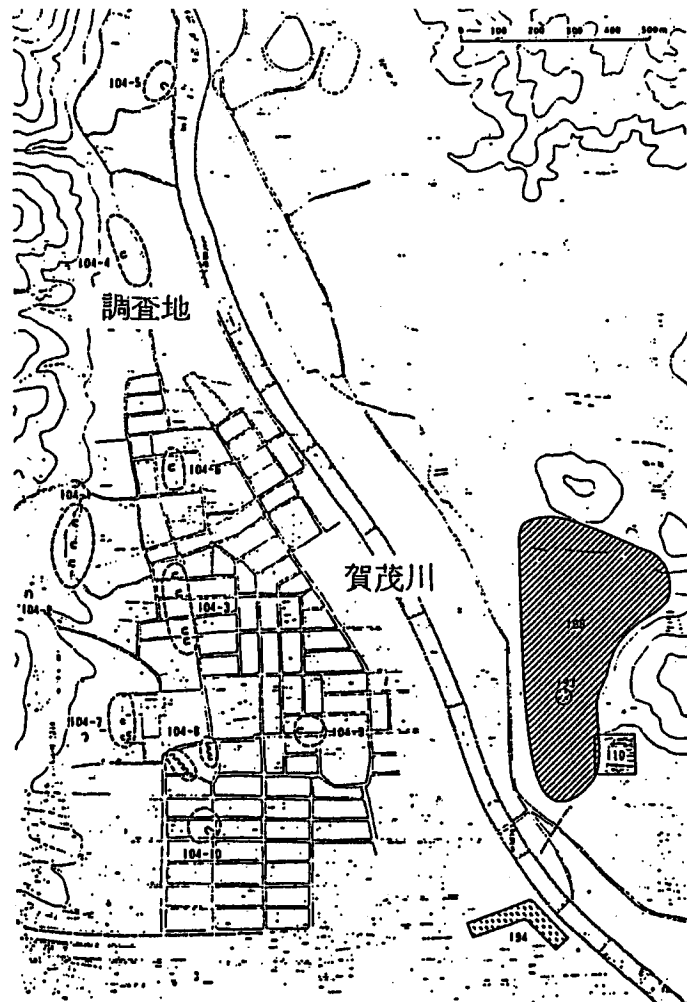


# 蟹ヶ坂瓦窯発掘調査現地説明会資料

1984年4月22日



(財)京都市埋蔵文化財研究所



調査地点位置図

所在地 京都市北区西賀茂蟹ヶ坂町  
調査面積 1,600 m<sup>2</sup>  
調査期間 昭和58年11月25日～昭和59年4月30日  
調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所  
調査経過

蟹ヶ坂瓦窯は、賀茂川右岸の段丘上部（標高113～120m）に位置する。附近一帯には、西賀茂鎮守庵瓦窯跡、醍醐の森瓦窯跡、船山窯跡など多くの窯跡が点在し、西賀茂窯跡群として知られている。

本窯跡は、昭和46年頃、土取りによって断面に露出した1基の窯が発見され、窯跡として確認された。

このほど、当地に京都市教育委員会により中学校建設の計画が立てられ、校舎予定地の一部が窯跡にかかることが予想されたため、窯跡周辺部の分布調査を行った。その結果、既発見の窯（1号窯）の南部で少量の瓦の散布が認められ、また、ボーリング調査によっても若干の焼土を検出したが、調査地南部は、竹林造成のための客土が厚く、詳細を知るには至らなかった。そこで1号窯周辺の南北80m 東西40m にわたって磁気探査を行ったところ、1号窯の他にも窯跡が存在する可能性が非常に高いことが明らかになり、発掘調査を行うことになった。

発掘調査は、当初1号窯と、磁気探査により磁気異常の認められた地点のトレンチ調査から始めたが、1号窯の南側に3基（2～3号窯）の窯体を検出したためトレンチを拡張し、この4基の窯跡を含む地域を調査区とした。さらに4号窯周溝（SD-1）を追及する過程で、もう1条の溝（SD-2）が大きく他の窯跡（1～3号窯）をとり囲むような状況で検出されたため、斜面上方へも調査区を拡張し、調査を行った。

## 遺構

今回の調査で検出した遺構は、窯跡 4 基と窯に伴う溝跡 2 条 (SD-1,SD-2) 及び性格不明の焼土壇 (SX-1) である。

1 号窯を除く 3 基の窯跡の遺存状態は良好で、特に 2,3 号窯の 2 基は、天井部も完全に残存していた。

窯は、丘陵斜面に長方形の平坦面を削り込んで前庭部とし、そこからさらに上方へトンネル状に地山をくりぬいた地下式のあな窯で、燃焼部と焼成部との境には 1m 前後の段差を持つ。焼成部床面は、幅 0.4～0.5m 程の階段状になっているが、1,4 号窯ではこの段を作るために丸瓦を使用している。

SD-1 は、4 号窯をとりまく逆 U 字形の溝で幅は 1～1.5m、深さは約 2m、SD-2 は、1～3 号窯をとりまく円状の大規模な溝で、幅 1.5～3m、深さは深いところで約 3m あるが、3 号窯のやや南附近から急に浅く (約 0.5～0.6m) なる。

この 2 条の溝は、いずれも窯体への地下水の流れを断つ目的で作られたものと思われる。4 号窯の南側に検出した土壇 (SX-1) は長辺 1.2m 程の逆台形状の平面を呈するもので、壁や底面が火を受けており、内部には炭や灰が堆積していたが、性格は不明である。

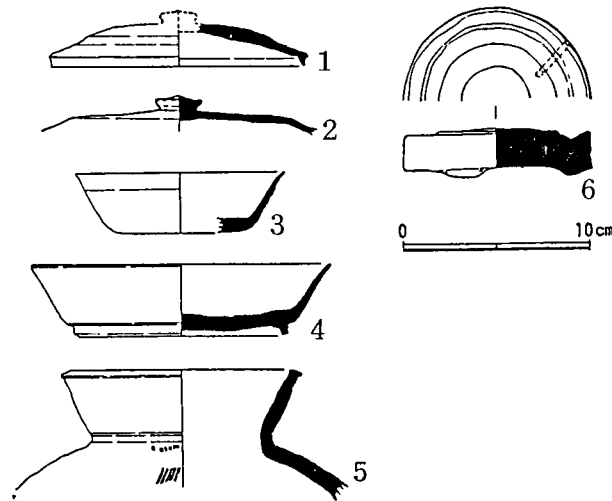
窯の立地する斜面下方は、著しく削平されており、このため各窯の灰原は前庭部附近にわずかに認められた他はほとんど残存していなかった。

## 遺物

灰原が削平されていたため遺物は少ない。整理箱に約200箱程度出土したが、二次堆積土中のものが大半で、窯内あるいは前庭部から出土したものは全体の2割程である。

遺物の内容は、瓦が主体で他に少量の須恵器が総数で十数片出土しているが、これらは出土状況や点数から見ていずれもこの窯跡で生産されたものとは考えられず、当窯跡が瓦専業窯であることを示すものであろう。

瓦類のうち瓦当を有するものは6点で、他は平瓦、丸瓦である。軒瓦は6点とも軒丸瓦で軒平瓦は出土していない。軒丸瓦はいずれも同文で、上出雲寺跡に比定されている上御霊神社境内から出土したものに同范のものがある。

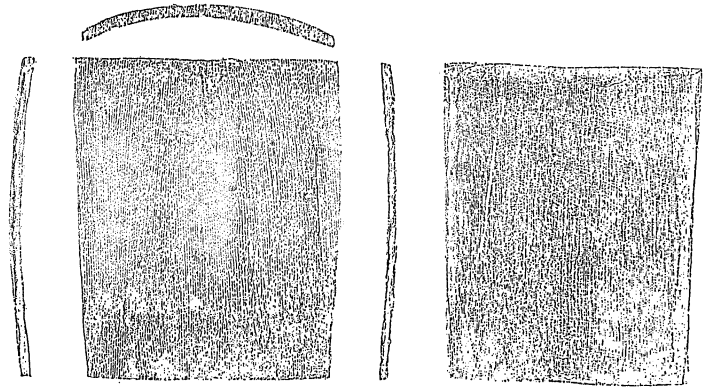
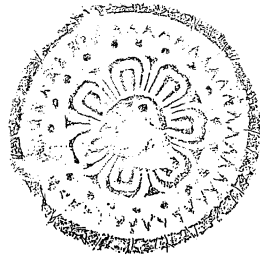


出土土器類実測図

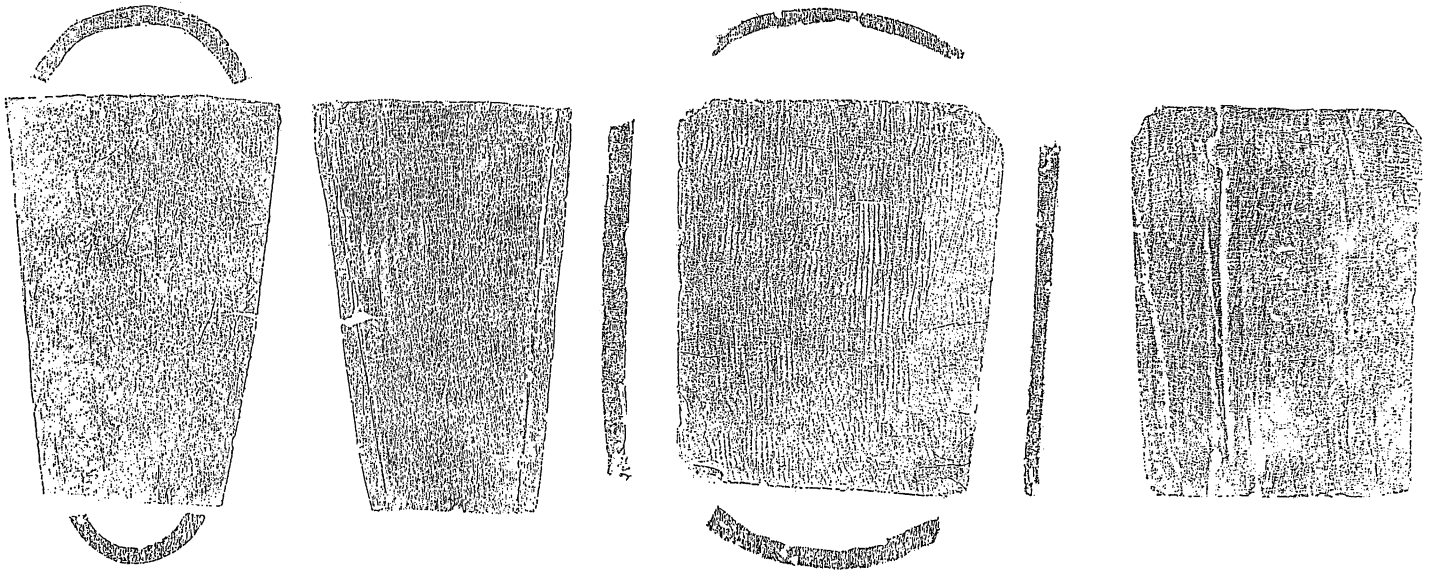


0 15m

出土瓦拓影 (軒丸瓦は1/3, 他は1/4)



御霊神社境内出土軒瓦 (1/3)



### 蟹ヶ坂瓦窯細部構造

	1号窯	2号窯
残存状況	半壊	完存
煙道部 (径/深)	不明	0.12×0.16m 1.44m
焼成室 (主軸×最大幅)	2.4以上×1.0m	4.7×1.44m
	段数	5段以上
	構造	瓦を用いる
	傾斜	30°36'
	床面数	2+x
	天井高	0.4以上
燃燒室	——	1.8×0.9~1.7m
階の高さ	——	0.8m
焚口 (横×高さ)	——	0.52~0.64 ×0.4~0.46m
前庭部	——	4×3.2~4.14m
灰原	——	——
出土遺物	9箱	53箱
その他	☆上部が削平されている ☆焼成室の土色が酸化色である	☆前庭部に柱穴(3)がある ☆天井・床面・煙道完存

	3号窯	4号窯
残存状況	完存	ほぼ完存
煙道部 (径/深)	0.38×0.18m 1.34m	0.16 (北) 0.22 (南) 1.4m 1.5m
焼成室 (主軸×最大幅)	3.94m×1.4m	4.52×1.56~ 1.8m
	段数	4段以上
	構造	粘土を積んで作る
	傾斜	28°25'
	床面数	1+x
	天井高	1.1m
燃燒室	2.15×1.74m	1.5×1.6~1.72m
階の高さ	0.76m	0.88m
焚口 (横×高さ)	0.48~0.6 ×0.38~0.42m	0.74×0.4m以上
前庭部	不明	2.2~4.46×4m
灰原	——	——
出土遺物	18箱	96箱
その他	☆天井部・床面完存 ☆煙道部一部崩落	☆燃燒室床面(2次)に59枚の平瓦を敷いてある ☆煙道が2つある ☆天井部は一部削平